クラス番号	342	担当教員名	伊藤　文人
		他専修学生受入上限人数	3名
テーマ	怠け者（マイナーな存在）に優しい社会（ユートピア）や大学のあり方を考える		
著書・論文 研究課題等	「グローバリズム／ラディカルソーシャルワーク／SWAN」金子光一他編著『新世界の社会福祉1　イギリス・アイルランド』旬報社, 2019, pp.85-117. （研究テーマ）グローバル時代におけるラディカルなソーシャルワーク―-歴史・思想・運動		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：①マイナー（な存在）；②ユートピア、③現代社会（と大学）／と関わる福祉・仕事・生活

【怠け者／マイナーに優しい社会や大学とは？――こんな疑問を持たれる方はオススメかも？】

日本社会は、残念ながら「怠け者」や「マイナー（マイノリティ）」には優しくありません。「個性」や「多様性」が大事とか言いつつも、なんだかんだといって「同じこと」「同じ考え」「同じ将来像（サラリーマンになる）」という「同調圧力」をかけてきますが、これに抗うことはきわめて難しい社会です。それでも、「それはちょっとおかしくね？」「そんな考えや生き方は文字通り息苦しい」「別の社会や仕事のあり方はあるのでは？」と思う人も多いでしょう。本ゼミは、そのような「ふつう」を強制されることに違和感を持っている学生さんたちと、その違和感を活かしあうような社会や大学のあり方をテーマに、内外の事例や実際に「マイナー性」を大切にしながら「生きている」人たちから学ぶことを主眼にしています。以下のキーワードに「びびっと」ときた人は一度遊びにきてください！

①「普通に生きる（正規雇用、年収五〇〇万、結婚して子ども２人、持ち家、自家用車）」は、本当にリアルか？
②「長いもの（多数派）に巻かれろ」は、本当に心地よい／安心を個人にも社会にももたらすのか？
③「ギフト（贈与）／言祝（ことほ）ぐ態度」と福祉とは？「面白く、善く生きる」「信頼できる大人」とは？
④「面白い生き方」を模索している人との出会いは、人生を豊かにするはずだ！

【学生から見た伊藤ゼミ（過去に在籍したメンバーの見解含む）】

・「自分の学びたいテーマが分からない」「自分の知らない世界で生きている人に会ってみたい」という人はオススメ。先生は「一人一人の学生の性格や資質に沿った接し方をする」「何気ない学生のつぶやきから学び方を教えてくれる」ちょっと「風変わりな人」です。

・「面白そう」という直感で入ったけど今では間違っていなかったと思う。学びとは何かという疑問がわき上がり、物事を多面的にとらえ、同じ事物を違う視点や論法で読解する方法も学んだし、文章を書く力が格段に上がった。他の学年（縦の関係）や先生の人脈の広さから福祉に限定されない外部講師と接する機会も多く、メンター（「怪しい場所・人物」との交流多し）など「へぇ？！こんな人や場所があるんだ」という所へ連れて行ってくれます。

・先生に読書の面白さを教えてもらい、気づいたら 150 冊を読破！読解や文章力も向上し、大学入学まで一冊も読まなかった自分がレポート執筆を通じて給付奨学金を獲得することができた！

・ゼミでやりたいことを自分たちで決めて実行する、そういう主体性を実感できるのがよいところ。ゼミ合宿企画や他大学との合同合宿、海外での国際交流なども面白い。

担当教員からのメッセージ

私自身は、「グローバル時代の社会福祉への批判的研究」をやっていますが、自身が極めて「マイナーな存在」なので、表題のテーマに落ち着いています。それは最近の学生さんたちの問題意識とも一致する場面が多いのです（笑）。私のゼミに集まる学生さんは、「典型的な福祉大学生」ではないのかも知れませんが、「マイナーでいることを怖れていない」「面白いこと」を学生として探している人たちかも。マイナーは自由と個人を大切にし、社会のマジョリティに安易に溶けないし、「マイナーならではの生き方」は、矛盾するようだけど社会的連帯もできるということ。これを探究するのは、楽しいものですよ！大事なのは、社会に対して個人として対峙できる社会的な感性です。やりたいことを見つけたら民主的に対話して計画・実行、その中で人は成長しま～す！